

摂食嚥下リハビリテーション日技指定研修

(基本研修課程)

日時

令和7年 **7月27日(日)**

12:30～16:00 (受付12:00～)

受講
無料

会場

① **会場参加** ※定員48名

群馬県生涯学習センター 前橋市文京町2-20-22

② **オンライン参加** (zoom)

締切後メールにてzoomID等お知らせします

「摂食嚥下リハビリテーションとは」

第一部

摂食嚥下リハビリテーションの 基本と実際



講師 東京科学大学大学院
摂食嚥下リハビリテーション学分野

助教 **吉見 佳那子**先生 (歯科医師)

第二部

摂食嚥下リハビリテーションに使用 する口腔内装置の 必要性和製作方法 について



講師 **西川 圭吾**先生 (日技認定講師)

【申込み方法】QRコードまたはFAX

<https://forms.gle/uRRQSqajUC6bUr3A9>

【申込締切】 令和7年7月15日



** FAXからのお申し込みはこちらです **

参加申込書

群馬県歯科技工士会 FAX 027-254-4327

お名前(ふりがな)

☐ 会員 (会員番号:) ☐ 会員外

☐ 歯科技工士 ☐ 歯科医師 ☐ 歯科衛生士 ☐ その他 ()

【勤務先名】

【ご連絡先】 電話番号 () FAX番号 ()

mail @

※zoom参加の方は必ずメールアドレスのご記入をお願いします

【ご住所】 〒 -

【受講場所】 ☐ 会場 ☐ オンライン参加 (zoom)

吉見 佳那子先生抄録 人は口から食事ができなくなると、鼻からの管、点滴や胃に直接注入すること（胃ろう）で栄養をとる。これがいかに患者の生活の質（QOL）を低下させるかは想像に難くない。しかし、胃ろう管理だったとしても、口から全く食べられないという患者は、ごく少数に限られる。ほんの一口のご馳走が、患者の人生を大きく変えうる。摂食嚥下リハビリテーションで、患者は一度失った経口摂取を再び取り戻すことができる。口腔内装置の数々はリハビリテーションアウトカムを改善させる重要な要素であり、歯科技工士もリハビリテーションを担う一員である。

摂食嚥下は、先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期という5期モデルで説明され、歯科技工士の貢献は、主に食塊形成、食塊の咽頭への送り込みを担う準備期と口腔期への対応である。舌接触補助床（PAP）は、口蓋部を厚くした有床装置であり、舌癌術後など器質的問題だけでなく、脳卒中、神経変性疾患などで低下した舌機能も代償する。歯科技工士も患者の食を通じてQOL向上に大きく寄与できるものの、PAPを製作した経験がある歯科技工士は決して多くない。

歯科補綴装置は、口腔機能改善だけではなく、咽頭の形態や機能にも影響する。義歯は食物残留を減少し、閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置は咽頭腔を拡大させ、睡眠時の呼吸を補助する。おそらく、歯科技工士が想像しているよりもはるかに口腔からのアプローチは人々の生活を変えられる。本講演が、歯科が患者の生活に与える影響の大きさを知るとともに、歯科技工士が提供できる価値を改めて考えるきっかけになれば幸いである。

西川 圭吾先生抄録 厚生労働省による歯科治療の需要の将来予想では、これまでの歯科ではう蝕などによる治療中心型でしたが、超高齢社会のなかで高齢者のなかには全身的な疾患や在宅診療への対応が求められると予測されており、口腔の機能の維持・回復を中心とした「治療・管理・連携型」への需要が増加してくることが報告されております。そのなかでも歯科では、咀嚼はもとより口腔ケアやリハビリテーションなどに期待されています。

歯科技工士が参加することが出来るのは、咀嚼に関わる歯冠補綴装置の製作はもとより、嚥下における機能維持や機能回復に効果がある「摂食嚥下リハビリテーション」に使用される口腔内装置の製作です。

歯科技工士養成機関の基本的な教育において、歯冠補綴装置に関する内容は教育されていますが、「摂食嚥下リハビリテーション」に使用される口腔内装置に関しての教育はほとんどされていないのが現状です。

今回、実臨床でも製作する機会の多い舌接触補助床（Palatal Augmentation Prosthesis / PAP）の製作方法について解説させていただきます。

「摂食嚥下リハビリテーション」に関わる歯科技工士に必要な最低限の知識について提供させていただきます、学びのきっかけになればと考えております。

摂食嚥下障害は機能的障害や器質的障害により「食べること」が難しくなる障害であり、低栄養や誤嚥性肺炎につながる可能性があります。また、超高齢社会である本国では、要介護高齢者が増加傾向にあるため摂食嚥下リハビリテーションによる機能補助や機能改善は極めて重要であります。摂食嚥下リハビリテーションでは口腔内装置を使用することがあり、歯科技工士はこの装置の製作を担っていますが、その実態について大学や総合病院以外での一般的な周知は進んでいないのが現状であります。

今回、東京科学大学(旧 東京医科歯科大学)大学院 摂食嚥下リハビリテーション学分野の先生を講師に迎え、「摂食嚥下リハビリテーションの基本と実際」についてご講演していただく運びとなりました。多くの会員皆様が参加して下さり、明日からの臨床に役立ていただければ幸いです。

※お昼休憩はありません

※日技会員は生涯研修当日「歯科技工士生涯研修カード」の持参をお願いします

お問い合わせ先

公益社団法人群馬県歯科技工士会事務所

前橋市江田町593-1 2-D

mail : gun-gi@bay.wind.ne.jp TEL : 027-254-4341

